神社名：王子稲荷神社　　おうじいなりじんじゃ

住　所：北区岸町1-12－26

調査月日：２０２０年２月１日

調査参加者：粟田、神川、河辺、有田、木村、梅田、宮崎、小幡、浅見、竹内、小林、木村（怜）
定本

写　真：

由来など：　祭神は宇氣母智之神、和久産巣日神、宇迦之御魂神です。もと岸稲荷と称し、創建は不詳だが、治承 4 年（1180）源頼朝が源義家の腹巻（鎧の一種）、薙刀等を奉納したと伝え、古くから関東惣社と称したということである。社殿は、寛永 11 年（1634）王子神社とともに幕府の手で造営され、元禄 16 年（1703）にも幕府によって造営さ

れ、現在の社殿は文政 5 年（1822）建立によるものである。

「江戸名所図会」は、当時のこの界隈の賑わいを「実にこの地の繁花は都下にゆづらず」と伝えている。

この神社には「額面著色鬼女図」がある。これは、天保 11 年（1840）、江戸の住吉明徳講（東京砂糖元売商組合の祖）が柴田是真に委嘱して描かせ、業界の守護神と崇敬するこの神社に奉納した絵馬で、渡辺綱に腕を切られた羅生門の鬼が、叔母に化けてその館を訪れ、すきをみて切られた腕を持って逃げる姿を図にしたものである。また、拝殿および幣殿の格天井に、谷文晁による竜の絵がある。

（北区文化財案内より）

御鎮座ははっきりしないが、「康平年中（一〇五八－六五）、源頼義、奥州追討のみぎり、深く当社を信仰し、関東稲荷総司と崇む」と伝えられるように、平安朝中期にはすでに相当の社格を有しており、江戸時代には徳川将軍家祈願所の一つに定められた。そのころ隆盛になった稲荷信仰に合わせたように、江戸中期より授与されはじめたと伝えられる「火防守護の凧守」が、その奴を凧御守にした形の面白さもあって評判となり、初午の縁日は「凧市」と呼ばれ今日に続いている。

（「東京都神社名鑑」より）

祭神など：宇氣母智之神、和久産巣日神、宇迦之御魂神

空間位置・面積等・植生など：地図上の位置：平塚神社、七所神社、飛鳥山と続く崖線の中腹にある。崖線からの湧水もあるらしい。関東の稲荷総社らしいので昔から崇敬の対象であったらしく、今日でも立派な社殿等が建つ。境内にはクスノキの大径木、ケヤキの大径木があり、社叢は斜面林を利用している。

地図上の位置：

平面図：調査せず